

未来 ひだか

みらくる

日高農業改良普及センター



有田農場(新ひだか町静内)



金森農場(新ひだか町三石)



今野農場(新冠町)

地域振興作物の栽培技術や経営について学ぶ生徒の皆さん

静内農業高校で取り組む「マイスター・ハイスクール事業」の支援

地域産業の持続的発展をけん引できる人材の確保・育成を目指して、令和3年度から静内農業高校で、「マイスター・ハイスクール事業」がスタートしました。この事業では静内農業高校と関係機関が連携して、高度かつ実践的な内容の研修を行っていきます。

農業改良普及センターは地域の農業者や関係機関と協力して、本事業の充実・強化に向けて支援を行っています。農業現場にも導入が進んでいるGAP（農業生産工程管理）について、座学と視察による研修を行いました。また、地域の振興作物であるミニトマト、ピーマン、花きの栽培技術や経営を直接農業者から学び、さらに、管内・外の事例紹介を中心とした農業の高付加価値化をテーマとする座学研修を行いました。生徒は、農業者や農業改良普及センター職員からの説明に、熱心に耳を傾けていました。本事業は3ヶ年計画で実施されます。今年度、実施した研修内容を振り返りながら内容の充実と強化を図り、高度な知識と実践力を持った地域産業の担い手の育成に向けて、引き続き支援を行います。



ファームホロ(新ひだか町三石)

参考にしよう！ 地域の活動事例

地域で広まる、ハウスの暑熱対策

【本所 地域第1係】

日高管内の夏は例年涼しい気候ですが、ビニールハウス内は好天が続くと温度が上昇しやすく、日焼け果や尻腐れの発生が増加するため、暑熱対策が必要です。そこで暑熱対策として、『遮光資材の活用』を新冠町ピーマン農業者に対してJAと情報提供してきました。

収穫作業者の負担軽減のために、遮光資材を作業ハウスの中に被覆する農業者はこれまでもいましたが、作物の高温障害軽減のための導入はあまり進んでいませんでした。

しかし、今年は7～8月が高温多照傾向になり、日焼け等の高温障害が多発した中で、新冠町内では提供した情報を参考に遮光資材を活用する農業者が徐々に増えました。

農業者からは、「ハウス内の温度がかなり下げられた」「日焼けや花落ちが少なくなった」などの声があがりました。

さらに、高温になりやすいハウス上部の換気に有効な『肩換気』を実践する農業者も増え、暑熱対策の必要性の理解が進みました。

コストや労働面も加味し、「暑くなってから考える」ではなく「今後も暑くなるかもしれない」という考えが広まるよう、情報提供を進めていきます。



遮光資材の被覆



肩換気

いちご着色不良果の原因を調査中！

【本所 地域第2係】

浦河町・様似町の夏秋どりいちご栽培では、着色不良果による規格内収量の低下が問題となっています。この問題解決を目指し、着色不良果の発生が少ない農業者の管理をまとめ、浦河町いちご試験ハウスにて再現試験を行っています。

この試験は、着色不良果の発生要因を特定するため、培地中にケイ酸資材を施用する区、遮光区を設け、無処理区の発生量と比較しています。また、中央農業試験場や花・野菜技術センターと連携し、作物体や果実の成分分析を行うことで、作物体がきちんとケイ酸を吸収しているかや着色不良果と健全果の成分の違いを調査しています。

今後は調査結果を収集・分析し、専門的な対策について検討していきます。



ケイ酸資材を株の両側に施用



遮光区（左）と着色不良果（右）

参考にしよう！ 地域の活動事例

地域支援会議プロジェクト「子牛育成支援」

【西部支所 地域係】

日高町で酪農生産を維持・発展させるためには、ほ育・育成管理作業の省力化を図る必要があります。このような中、課題解決に向けた取り組みとして、育成牛の共同預託施設（株）日高キャトルセンター（以降、センター）が開業しました（R3.11）。

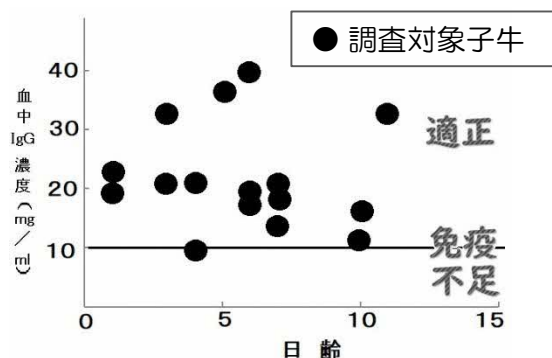
センターでは、生まれて3日齢～14日齢の子牛を受け入れ、21ヵ月齢（分娩2ヵ月前）まで飼養します。受け入れ時の子牛の健康状態がその後の発育に影響するため、プロジェクト※を行い、預託を希望（志向）する農業者の初乳の給与方法や、血液検査による免疫獲得状況を調査しました。現場で行う簡易検査で正しく子牛の状況が把握できるかを、酪農試験場の化学分析を併用して行い、整合性を確認しました。

プロジェクトで調査した子牛は、概ね十分な免疫を獲得できていました。今後とも、預託時に十分な免疫を獲得した子牛となるよう、農業者への支援を続けていきます。

※地域支援会議プロジェクト：地域の緊急的な課題に対し、行政、普及、研究が連携し支援を行う活動。



免疫獲得状況を農業者と確認



免疫獲得状況（R3地域支援会議プロジェクト）

日高管内指導農業士・農業士現地研修会が開催されました

【広域班】

令和3年11月4日、日高管内指導農業士・農業士会現地研修会が浦河町で開催されました。

JAひだか東いちご共同選果場では、太田営農生産部長から共選体制の整備による、いちごの高品質・安定出荷体制の説明が行われた後、選果作業を視察しました。

菅農園の菅正輝農業士から、スマート農業技術の1つである環境制御技術を導入したハウスの概要、いちごの品種や栽培方法に関する話をうかがいました。また、販売部門の会社設立のねらいや商品の紹介の後に、SWOT分析※による経営戦略の立て方について学ぶことができました。

座学研修では、普及センターから「スマート農業に関する普及センターの取り組み」の情報提供、ホクレン苫小牧支所営農支援室から「日高管内で活用できるスマート農業技術」の講演がありました。

出席者は、視察先の先進的な取り組みや、スマート農業技術について多くの情報を得ることができました。

※SWOT分析：自社の事業の状況等を強み・弱み・機会・脅威の4つの項目で整理し、分析する方法



いちごの共同選果を視察



菅農園での研修の様子

デルフィニウムで先進的防除を実証中！

【本所 地域第1係 新ひだか町】

令和3年度から、花・野菜技術センターの試験課題「紫外光（UV-B）を利用したデルフィニウムうどんこ病の防除法の確立」の取り組みに、新ひだか町、JAみついし、花き生産農家、普及センターが協力しています。

新ひだか町農業実験センターや花き生産農家ハウスでは紫外光（UV-B）ランプを先行導入しており、うどんこ病の発病程度や害虫の発生状況、生育への影響等の調査を行っています。また、令和4年度以降は現地調査の他、実証試験を予定しています。

この防除法が、新ひだか町の花き生産農家はもとより、全道の花き生産農家のお役に立つことを期待します。



「ドローンの実演会が行われました（スマート農業技術導入に向けての支援）」【広域班】

8月27日、日高町豊郷地区でドローンによる水稻防除の実演会がありました。

ドローンは、無線操縦で飛行する小型無人機で、衛星電波を利用し高精度な自動飛行（離陸、散布、離陸位置移動、着陸）を可能にします。また、プロペラをモーターで動かすため、動作音は静かです。

実演会は、水田70aで行われ、約10分で作業は終了しました。参加した農業者は「防除作業はとても早い。区画が小さい水田では、より作業能率が高くなるのでは」と感想を述べていました。

ドローンは比較的安価で安全性が高いため、日高管内に導入しやすい省力的な技術と考えられました。



「4HCの活動紹介」

【西部支所 平取町 本所 地域第2係 浦河町】

平取町4HC いなきび栽培の取り組み

かつて平取町でアイヌの方々が食していたシブシケブ(いなきび)。地元の食文化を復活させたいとの思いから、2017年より栽培に取り組んでいます。

近年は町内売店で販売だけでなく、地元レストランでメニューに使用されたりと、需要が高まっています。今後も地域活性化の一助となっていくことでしょう。



浦河町4HC 十勝方面視察研修（10/30～31）

士幌町のFOREX森産業株式会社で、馬糞堆肥の製造・流通について学びました。完熟堆肥にするには、1ヶ月に1回の切り返しが必要であることが分かりました。会員からは、「家の堆肥と違って完熟堆肥は臭いもなく土みたいだ」「切り返しはやっぱり重要なんだ」と様々な意見が聞かれ、堆肥作りの参考になりました。



堆肥の説明（左端：廣川氏）と馬糞堆肥

日高農業改良普及センター本所

TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521

〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所

TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918

〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>